

第3回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会 議事録（概要）

1 日時

令和4年（2022年）5月31日（火）14時00分～16時00分

2 場所

水前寺共済会館グレース ア 芙蓉

3 出席者

八幡英幸委員、出川聖尚子委員、野口泰喜委員、藤本英行委員、足立國功委員、大平雄一委員、音光寺以章委員、吉永公力委員、本田裕紀委員、原公德委員、作田潤一委員、牛田卓也委員、田中篤委員、池田廣委員、田中万里委員、松島雄一郎委員、夏木良博委員（計17人）

※令和4年度（2022年度）に、6名の委員の交代及び1名の委員の追加があった。

4 概要

（1）開会

（2）県立学校教育局長挨拶

（3）出席者紹介

事務局が出席者紹介をし、時間の都合上、委嘱状交付に代えて、委嘱状を机上配付した旨説明した。併せて、設置要項第6条第2項の規定に基づき、本会が成立することを報告した。

昨年度から会長を八幡委員、副会長を出川委員が務めていること、公立高等学校長会教育課題委員会の委員長である田中篤委員が新たに委員を委嘱されたことを紹介した。

（4）日程説明

事務局が本会全体の予定について、今後7月、9月、11月を目安に委員会を開催予定であること、今年度中に委員会の御意見を提言という形でまとめていただくことについて説明した。

（5）会議の公開・非公開

八幡会長が運営要領の第5の規定に則り、会議の公開・非公開について諮った。委員から異議なしで公開を決定した。

（6）委員会の趣旨説明

事務局が資料1により本会の設置の経緯、協議依頼事項について説明した。併せて、本会は、県立高等学校あり方検討会の提言に基づいたものであること、魅力化に向けた他の取組と同時並行で行っていくものであり、本会では入学者選抜制度について協議いただくことを説明した。また、通学区域等については県立高校のあり方検討会の提言を踏まえながら慎重に判断するということが本会での議論は行わないことを説明した。

資料の5ページ及び6ページの設置要項及び運営要領を紹介した。

(7) 入学者選抜制度の趣旨と課題

今年度新たに委員に就任いただいた方がいることを踏まえ、事務局が資料2により本県における近年の入学者選抜制度の趣旨と課題等について説明した。

「令和4年度(2022年度)熊本県立高等学校入学者選抜案内」の8ページ及び9ページにより現行の入学者選抜制度について説明した。

(8) 議事

○令和4年度(2022年度)熊本県立高等学校入学者選抜について【報告】

○入学者選抜制度の今後の方向性について

ア 第1回及び第2回委員会の概要及び論点

イ 主な都道府県の入学者選抜制度について

<配布資料>

- ・第3回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会 会議次第
- ・「令和4年度(2022年度)熊本県立高等学校入学者選抜案内」

【事務局】

資料3により令和4年度(2022年度)熊本県立高等学校入学者選抜の状況について報告した。資料4により充足率等について説明した。資料5及び資料6により令和4年度入学者選抜における前期(特色)選抜及び後期(一般)選抜の出願状況を紹介した。

【夏木委員】

中学校の卒業者数が増加し、前期(特色)選抜の募集人員、出願者共に増加しているが、合格者は減っていることをどう捉えているか。

前期(特色)選抜の倍率が令和3年度及び令和4年度で学校・学科を問わずばらつきがあることをどう捉えているか。

【事務局】

特に郡部の高校は枠を広げたことで合格に結びついた部分も多いが、定員が増えていないところに出願者数が増えたところもあり、結果的に合格の割合の上昇には直接は結びつかなかったところがあるのではないかと考えている。

各学校、学科・コースで魅力化に努めているが、年ごとに希望者が集まるときと集まらないときがある。募集定員を70%に拡大したりすると、同じ数受検していても倍率としては下がっているように見える学校もあり、一概に前年と比べて人気下がったということではない部分もある。倍率の上下については、今後各学校と共に分析していきたい。

【吉永委員】

前期(特色)選抜で、募集割合の範囲を50%から70%に変更しなかった学校もあるが、その理由は何か。

【事務局】

各学校が、学校の事情や状況によって決めることになっている。学力検査を課す入試をある程度維持したいという学校、または70%に拡大しなくても50%で十分確保できて

いるという判断をしている学校もある。70%に拡大する場合は、面接プラス小論文等を課すということにもしていたため、その点も踏まえて判断されている。

【音光寺委員】

充足率が年々下がってきており、定員割れしている高校の割合も年々増えている状況を高校教育課としてどのように分析しているか。

【事務局】

県内の少子化の傾向が強まっていることが原因と考えている。定員割れをしている高校は郡部に集中しており、現在高校教育課として高校の魅力化を進めているところである。

【事務局】

資料7により第1回検討委員会の論点、資料8により第2回検討委員会の論点を説明した。

【八幡会長】

第2回検討委員会では、各都道府県の入学者選抜制度をパターンとして示し、意見を伺った。前回議論を尽くすところまでいかなかったため、今回も引き続き他県のパターンを議論の土台として意見を出していただきたい。

【事務局】

資料9により各都道府県の入学者選抜制度のパターン及び当課による各パターンの分析を説明した。

【作田委員】

「成績評定」以外の推薦要件の例を紹介してほしい。

佐賀県の「スポーツ文化芸術特別選考」と「一般選抜の特色重視の選考」は併せて実施しているのか教えてほしい。

学力検査を実施している他県で、5教科以外を実施している県はあるか教えてほしい。

【事務局】

推薦要件の例として、科学技術に対する興味関心等、将来選考を希望する分野が理系であることなどが示されている福岡県の理数科の例を紹介した。

佐賀県の「スポーツ文化芸術特別選考」と「一般選抜の特色重視の選考」は同じ学校で両方実施されている。

佐賀県では5教科に加えて希望する学校が実技検査を、千葉県では5教科に加えて学校設定検査を、神奈川県では学力検査に加えて面接を実施している。

【松島委員】

入試の1週間前倒しについては、日程が早いという保護者の声がある。千葉県の入試日程を知りたい。

【事務局】

令和4年度の入試では、検査日が2月24日と25日、合格発表が3月18日（合格発表日については後で訂正）。

【大平委員】

各県で多様な入試制度があることを知り、独自の地域性が考慮された制度になっているのではないかと思った。入学の意思と卒業後の進路が結びついていることが重要。入学者の意思に沿った進路が開けるかということと現行の問題点（負担がかかるなど）を天秤にかけて評価していくことが必要ではないか。

【野口委員】

資料11の充足率について、最終的に入学した数でこのような結果になっているのか。毎年定員割れが発生している状況は改善していかなければならないと思う。

【事務局】

二次募集等を経て最終的に入学をされた方も数字に入っている。定員割れについては、少子化と魅力化の課題と両方あると思う。入試制度と魅力化を両輪の形で進めているところである。

【八幡会長】

魅力化のことは別途取組をされており、魅力化と入試制度は関係がないということではないが、本会では入試制度をどうするかということに集中していきたい。

【足立委員】

専門高校と普通高校を一緒に議論しているのか。

【事務局】

まずは専門高校、普通高校を含めたすべての県立高校の入試制度ということで捉えている。

【足立委員】

他県の例では特色が強調されているので、熊本でも専門性と進学目的など特色に配慮してはどうか。

4のパターンがよいと思う。学力検査が1回で受検生に負担がかからない。特色と学力というような色々な選考基準があるのは、選択肢を広げるニュアンスがあるのではないか。

【夏木委員】

学校側の負担を減らすことは生徒のために最も有効性がある。現状が受検機会の拡充につながっていない中では、できるだけ試験日程を分散させない方向性が大事ではないかと思う。

都会では子供の居場所は学校以外にもあるが、地方では、学校が中心。多様性・特色のある生徒を評価し大事にするという観点で、多様性の評価を試験科目に入れていくのは重要ではないかと思う。

【牛田委員】

今年の入試を振り返ると非常に負担が大きかったというのが正直なところ。最大4回の入試をする可能性があり、行事の多い時期に準備やシミュレーションを4回するのは難しいと思った。負担の軽減は、単に教員の負担に留まらず、子供たちが影響を受けるため、非常に重要な視点と思う。

R4年度入試の4回の入試は、新型コロナウイルス感染症対応のために特別なのか、今後も基本的にはこれをベースにして、今後、前期（特色）選抜と後期（一般）選抜をどうするのかという議論になるのか。現段階で方向性があれば教えてほしい。

スクール・ミッションやスクール・ポリシーを何らかの形で反映させることが必要ではないかと思う。パターン4の方法が一つのやり方だと思う。負担を増やさない中で、それぞれの学校の特色あるいは求める子供たちをとれるような入試をするのは大事でないか。より入試の中で、それぞれの学校の特色につながるような中学生を選抜できるということができればよい。

【事務局】

質問いただいた件について、新型コロナウイルス感染症の拡大という想定していなかった状況下で、中学生の受検機会の確保をしなければならないという中で学校現場には御心配や御迷惑をおかけしたところもある。今後の方向性については、終息が見えないという悩ましい状況であり、現時点で明確に回答することは難しい。学校の負担を考慮することも当然であるが、中学生が安心して受検できるようにすることが第一義にあり、その点を踏まえてどのような日程でやっていくかが決まっていくと考える。

【音光寺委員】

今年度の入試で新型コロナウイルス感染症に関して配慮いただいたことはありがたい。現場の校長先生からは、1週間早まったことで、行事の変更、学習保障、入試事務の面で非常に負担が多かったし、子供たちにも相当無理をさせたという意見が結構聞かれた。中学校の内容をきちんと学習するという保障が一番大事である。学習する過程で子供も保護者も入試について考える時間が持てる。

前期（特色）選抜で不合格になった子供たちへの配慮は中学校現場では一番苦慮する。前期で不合格になっても後期で定員が満たないというところがあるので、そうであれば一度の試験でいいのではないかという意見も多く聞かれる。不合格体験が子供にとって精神的な負担が大きいということは委員の皆様を知っておいていただきたい。

【原委員】

音光寺委員からもあったように、今年度の新型コロナウイルス感染症に対応した入試制度はありがたかった。救われた生徒が数名いたと聞いている。

受検機会は重要なことであるが、単に回数が多ければ子供たちが幸せかということそうではない。選択の幅が広がる、子供たちの適性や個性に応じた選択ができることが大事であり、私たち中学校の教員もそういった指導をしていなければならぬ。

子供たちが自分の能力、適性、意欲に応じたきちんとした学校選択をしているかは疑問がある。とりあえず前期を受ける、前期で不合格だった場合ショックで立ち直れないということもあるため、できれば1回で合格して決定するというのが一番良いと思う。

定員割れが出てきていることで、最初から二次募集を待つような形で二次募集を受けて進学した生徒もいた。中学校でもきちんとした進路指導やキャリア教育をやっていかなければならないと思う。

【作田委員】

令和3年の入試については、丁寧に追試検等も行っていただき、子供たちに進学する権利を保障していただき、ありがたかった。中学校生活を充実したものにして学力をきちんとつけるためには、入試時期をもう少し遅らせていただきたい。

上益城郡内でも定員割れの学校があるが、少人数だから救われている子供たちもいる。中学校で学校に行けなかった子供たちが少人数の中で、高校で学力を保障してもらってありがたいたいという考えもある。

【田中篤委員】

4のパターンについて、受検生はある学校を1回受検し、その選考で別の基準で選考するのか。割合は違ってても全ての学校でこれを導入しているということか。

【事務局】

パターン4を実施している県では基本的にはそのような形。県によっては、特色重視の方を先に選考し、その後学力重視の選考をすると示しているところもある。どちらの選考で合格したかを受検生に伝える県もあると聞いている。

【田中篤委員】

中学生の意識として早く決めたい、しかし受検回数が多くなるということだけが受検生を救うことにはならないということになるほどと思う。定員割れをしている熊本市外の高校からすると、入試制度によって定員割れが加速されてしまうというような制度にはならないようにしていただきたいと思う。そういったことを考慮して制度設計をして頂きたい。

【田中万里委員】

前期（特色）選抜で不合格の場合の子供の心のケアに苦慮するということは保護者からよく聞く。その中で現行のやり方を他県と比較して今後慎重に考えていかなければならないと思う。

前期（特色）選抜に合格した場合、学校での学びや入試後の生活態度などにも大きく表れてくるのではないかとということが保護者会でも大きく取り上げられる。後期（一般）選抜を受検する生徒もいる中で、そういう部分を含めてどういう受検のパターンがよいのかこの場でしっかりと考えて、今後提案できればと思う。

【吉永委員】

児童生徒数は郡部の方では確実に減っている。ここ数年は変わらないかもしれないが、郡部の中学校の卒業生は徐々に減っていくのは間違いない。

本会では、新しい制度を確実につくっていくのか、今の制度でやっていくということであればそのままいくのか、先の見通しや考えがあれば教えてほしい。制度が変更される場合、中学生にとっては非常に大きな問題。千葉県は制度変更を何年くらいかけてされているのか知りたい。

【事務局】

具体的な情報を持ち合わせていないため、次回改めて回答させていただく。

【事務局】

資料9には本県の現行の制度もパターンの一つとして入れており、必ず変えるということではなく、現行制度も含めて何が最も良いのか御意見をいただきたい。他県を見ていると、委員会等で方向性を出されてそれを実際に動かす場合、一定の周知期間を必ず取っており、本県もそのような形になる可能性が高い。

【夏木委員】

出願変更というのが設けられているが、これに意味はあるのか。

【原委員】

出願変更をする生徒の数は多くないが、競争率を見て不安な生徒が競争率の低いところに変更するということはある。どちらにしようか悩んでいて出願状況を見て最終的に決めるという生徒もいる。意義があるかは難しい問題だが、それによって救われて進路が保障できた生徒がいるというのは事実。

【池田委員】

私学では、市内の受検生は前年度より増加しており、受検者は市内に行きたいのかなという気はする。郡部の受検者は前年度より減っている。市内14校中9校が定員を充足。郡部は全て定員を割っている。

県立高校の入試の1週間前倒しを受けて、これまで一本化してきたのが崩れている。日程統一の話をしているが、各校は受検者確保に必死のため足並みがそろわない。そのため、県立高校がいつから制度変更になるのか、1週間前倒しが続いていくのか私学は非常に気にしている。

県立の前期（特色）選抜が終わって私学の合格発表がきているが、専願の場合は前期の合格を辞退ができるようにしていただいているので、ある程度の辞退者が出ているのではないかと。保護者から私学がもっと早く合格発表をしてくれと要望されるが、入試事務上難しい。来年度の日程についても協議している。

【田中万里委員】

郡部の定員割れをなくすために今回制度を変えて入学者を増やすという方向で考えているのか。

【事務局】

現行の制度で充足率が下がっている状況でこの入試制度が確かなものなのか、現行制度は10年以上経っており、世の中の変化の中で合っているのかという点が一つある。県立高校の充実という視点は当然あるが、まずは現行制度が十分なのかというところをしっかりと見たいというのが本会の趣旨である。

【田中万里委員】

子供たちは情報をたくさん持っており、自分で受検先を決める。定員割れの郡部の高校のことを考えるのであれば、魅力化をどうしても進めないとなかなか厳しいのではないかと。保護者、子供とふれあう中でそれを感じている。上天草市では行政も協力して様々な取組をしていても成果が出ない。選抜制度のことだけでなく、魅力化のことも含めなければ難しいのではないかと。

【八幡会長】

高校の魅力化と関連する部分もある。学びの保障、受検機会の拡大、多様な能力、適性の評価、教員も含めた余裕が必要など様々な視点がある。それらの要請を高次元で両立させられるような案を選択していけるようにこれからこの会として進めていくべきと思う。

【事務局】

次回の検討委員会までに事務局で論点整理をする。

先ほど説明した千葉県合格発表の期日については、3月7日に訂正する。11ページのデータについて、令和4年度のデータについては、入学者選抜結果に基づく入学予定者数ということを補足する。

【事務局】

活発な議論に感謝する。それぞれのお立場で周りの方から御意見を聞いていただき、次回の会議に持ち寄っていただければありがたい。

【事務局】

次回は7月中を目途に開催を予定している。詳細は書面にて改めて連絡する。

【事務局】

これをもって第3回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会を閉会する。

以上